

第3回 古出石焼展

Old Izushiyaki Exhibition

古出石焼をこよなく愛する
コレクターの逸品展

10/29(土) ~ 12/25(土)

鑑賞料500円



染付三重塔など
約50点展示致します。

古出石焼によせて Old Izushiyaki

現在では、出石焼と言えば白磁と言われていますが、その歴史をたどってみますと陶器、炆器、磁器と様々なものが作られています。出石焼の文献はそれほど多くありませんが、兵庫県立歴史博物館刊行の「山口コレクション」の図録には、近世出石焼は、天明四年（一七八四）に出石郡細見村桜尾の地で、伊豆屋弥左衛門が土焼窯を築いたのが始まりであること、当初丹波焼職人に焼かせていたが、後には京焼の職人も加わったこと、寛政二年には平戸の職人によって磁器が試焼され、寛政十一年には藩直営になっていることなどが書かれています。しかし、兵庫県の代表的な焼物としての出石焼は十分に研究がなされていないのが現状です。

焼物を見て、何焼かを同定することは非常に難しいことですが、土の肌触りや発色、何が描かれているかを調べることによってわかっていくことが多いように思われます。特に描かれているものは、その地域の文化や歴史と大きくかかわりがあると思っています。

例えば、出石焼の産地である但馬を考えてみますと、古事記に記されている天之日矛、御出石神社の藤の花の話、また、お菓子の神様として有名な中嶋神社の田道間守命の話、あるいは豊岡出身の作家山田風太郎の祖父の祖父にあたる鳥取藩の御用絵師小畑稻升は、鯉の絵を得意として「鯉の稻升」と名声を博していたことなどを考えてみると、いろいろなことを感じるのではないかと思います。

忠臣蔵で有名な大石内蔵助の妻 大石理玖が豊岡の生まれであることなどを考えると、赤穂の地で「古出石焼をこよなく愛する コレクターの逸品展」が開催されることは非常に有意義なことと思います。

古出石焼コレクター
兵庫県播磨高等学校 副校長 安積 秀幸